

アカマツ葉の販売による 収入の確保と経営改善

岩村田・経営課 収穫係 ○安田 孝雄
小諸森林事務所 池戸 健志

はじめに

近年、一般の国民の間に自然食嗜好、漢方薬の利用の気運が高まってきている。その様な中で、当署では古来から滋養強壯として、また近年ではその成分が虚弱体質、動脈硬化の治療薬として見直されているアカマツの葉を平成2年度から製薬会社である和漢薬研究所に販売し、収入の確保と造林経費の節減に努めることができたのでその結果を報告する。

1. アカマツ葉販売に至るまでの経過

アカマツの葉から抽出した成分を薬用として利用開発している群馬県にある和漢薬研究所から、「平成元年度まで前橋営林局管内でアカマツの葉を購入していたがアカマツ林の伐採が進み、また松くい虫の被害等により必要なアカマツ葉の確保できなくなった」などの理由から隣接局である長野営林局に照会があった。

そこで地理的に近く、アカマツ林の多い当署を紹介され検討を進めたところ、収入の確保等に結びつくことからアカマツの葉の販売をすることになった。

2. 販売上の問題点

従来、和漢薬研究所ではアカマツの間伐を実施する木材業者と連携し必要なアカマツの葉を確保していた。

しかし、アカマツ葉の採取適期が和漢薬研究所の希望により梅雨明け後2週間程度に限られていることから、問題点としてアカマツ材については活動期に伐採を行った場合、材の変色、虫食い等の被害が顕著に現れるため販売の時期としては適期ではない。

そのため前橋局においては、パルプ材としての価格決定をしていたため有利販売につながらなかったと聞いている。第2点目としては、立木販売をした場合アカマツの葉も併せて販売、採取することは技術的に難しいこと。

第3点目としては、保育間伐箇所等から採取する場合、下列りの最盛期であり労務者の確保が難しいことの3点があげられる。

3. 問題解決の方策

当署では、アカマツ林の間伐が必要であるが小径木あるいは林道から遠いこと等の理由から間伐が難しく、林分の密度の高い箇所が平成5年度以降人工林では約670ha、天然林では約450haの計1,120haある。(表-1参照)

これを販売相手方に保育を実行していただき、かつ、アカマツ葉の採取ができないか検討をした。

この結果相手方の理解を得ることができた。

労務者の確保については、販売相手方の事業を請負う佐久市森林組合において検討されたところ、

高齢者の就労を斡旋している佐久市シルバー人材センターの協力を得ることができた。

表-1 間伐の必要な林分

	面積 (ha)	適 用
人工林	670	アカマツ. 平成2年以降
天然林	450	
合 計	1,120	

4. 事業実行箇所の概況及び林分

事業の対象地は高峰国有林3い林小班内である。

全面積は33.55haである。林況は昭和44年植栽のアカマツ単層林で平均直径12cm、平均樹高11mである。標準地調査から保育間伐前林分はRy0.9である。これに20%の間伐を実施すると保育間伐後Ry0.8となり、必要な間伐の効果を得ることになる。

また、1本当たりのアカマツ葉の採取可能な重量を調べてみたところ、7Kg程度の収穫ができることがわかった。このことから当地域から採取を行うことにした。

5. アカマツ葉販売の実績額

表-2のとおり平成2年度は9haの保育間伐を実施し10tのアカマツの葉の採取をし販売額は305,000円であった。平成3年度は5haの保育間伐を実

施し8tのアカマツの葉の採取を行い販売額は255,000円であった。平成4年度は3haの保育間伐を実施し10tのアカマツの葉の採取を行い販売額は318,000円であった。3年間で878,000円の収入を上げることができた。

また、造林費については平成2年度は既に保育間伐を行う業者が決定していたため造林費の節減はできなかった。しかし、平成3年度と平成4年度についてはその保育間伐費用を相手方に負担してもらうことにより、推定約669,000円の節約になった。

表-2 アカマツの葉の販売額と造林費

	実行面積 (ha)	採取量 (t)	販売額 (千円)	造林費 (千円)
2年度	9.00	10	305	752
3年度	5.00	8	255	0
4年度	3.00	10	318	0

6. 結果

従来は利用が松飾りや生け花などに限られていたアカマツの葉を、製薬用に販売することで新規の需要開発と収入の確保が得られた。

さらに小径木等の理由から間伐ができず過密な林分となっていた箇所を、葉を採取するために伐倒することにより保育間伐の効果があり造林経費の節減ができ、僅かではあるが経営の改善に資することができた。

さらにシルバー人材センター登録職員が作業に従事したことにより地域高齢者の就労の場を広げることができた。また、これらの仕事を通して営林署の事業への理解とPRを行うことができた。

おわりに

今後の課題としては、まず1点目として漢方薬の需要が伸びてきていることから今後も原料として、ひきつづきアカマツ葉の販売が見込めること。

2点目は、和漢薬研究所としては長期的な継続販売を望んでいること。

3点目は、葉以外の販売ルートの開拓に取り組んでいく必要があること。の3点があげられる。

1, 2点目については当署管内には、間伐を必要とする林分が約1,120ha

あることから十分対応が可能と考えられる。

3点目については、例えば門松、生け花等の用途ととして業者や森林組合等と連携を密にして情報等の収集を行いながら需要先の開拓や販売先の確保に努めたい。

さらに、現在アカマツの葉のkg当たりの販売単価の引上げの検討をしたり、伐倒したアカマツ材をパルプとして販売できないかの検討をしている。

当署では、今後もこれらを通してたとえ僅かでも収入の確保に結び付け経営の改善に努めて参りたい。

最後に、この発表に協力していただいた関係者の皆様にお礼申し上げます。